

先週のマーケット動向(7月12日～7月16日)

為替、株式

	Open	High	Low	Close	Chg
USD/KRW	1,144.8	1,151.9	1,138.6	1,139.5	▲9.6
JPY/KRW	10.3865	10.4228	10.3479	10.3600	▲0.079
KOSPI	3,227.51	3,286.58	3,227.51	3,276.91	+58.96

(Source: SMBS, Bloomberg)

先週のドル/ウォン相場は上に行っており、12日は1,144.8ウォンでオープン。13日にかけて目立った材料なく、ドル/ウォンは1,145付近でもみ合いの展開となった。しかし、13日海外時間に発表された米6月CPI(実績:前月比+0.9%、予想:同+0.5%)が非常に強い結果となると、パウエルFRB議長の講演を前に早期のテーパリング懸念への警戒感が広がり、14日にドル/ウォンは1,151.9まで上昇した。しかし、1,150ウォンを越える水準では実需のウォン買いが入り、ドル/ウォンの上値が徐々に重くなると、14日海外時間のパウエルFRB議長の講演が市場予想以上にハト派色の強い内容だったことでドル売りとなり、ドル/ウォンは下落した。さらに15日BOK会合では基準金利は据え置きとなったものの、利上げを出張する委員が1名いたほか、BOKが今年の韓国成長率見通しを4.0%に維持したことが原因で韓国国債金利が急上昇し、ドル/ウォンは下落。16日もドル/ウォンの上値は重く、結局、先週末対比9.6ウォン下落の1,139.5ウォンにてクローズ。

今週の見通し

今週のドル/ウォン相場は上値の重い展開を予想する。新型コロナ変異株の韓国国内での感染は拡大しているものの、BOKは感染状況は利上げ時期を決める一要因であり、全てではないと示しており、市場は改めて利上げを織り込みに行っている状況だ。一方で、米国はパウエルFRB議長により早期のテーパリング懸念があたりめて払しょくされたほか、ここにきて経済指標の回復にも陰りが見えている。かかる中、ドル/ウォンは7月上旬までの上昇から反落していく局面が今しばらく継続しよう。

予想レンジ

USD/KRW	JPY/KRW	USD/JPY
1130 ~ 1155	10.25 ~ 10.55	109.0 ~ 111.0

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

USD/KRW チャート (Source: Bloomberg)



JPY/KRW チャート (Source: Bloomberg)



今後の予定

- 20日(火) 日6月CPI
米6月住宅着工件数
- 21日(水) 日6月貿易統計
- 22日(木) 米7月失業保険新規申請者数
欧7月消費者信頼感指数 一次速報
米6月中古住宅販売件数
欧ECB政策金利発表
- 23日(金) 米7月製造業PMI速報値
欧7月製造業PMI速報値
欧7月サービス業PMI速報値
米7月サービス業PMI速報値